

令和5年度文部科学省委託事業  
「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

# 留学生に関する 実態把握アンケート調査報告書

日本語教育機関対象

令和5年10月調査

一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

# 1 調査概要／INDEX



## ◇調査方法

調査対象：日本国内の日本語教育機関  
調査方法：インターネット調査（アンケート）  
調査期間：2023年10月10日～10月27日  
回答数：47

## ◇INDEX

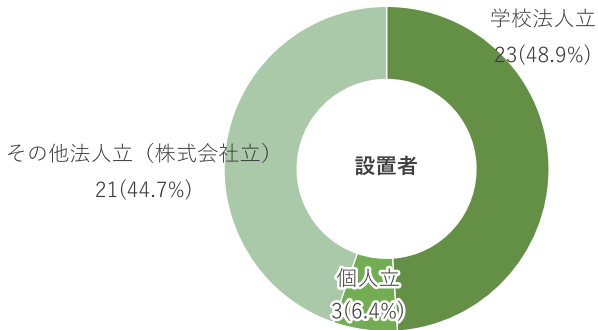
P01	1. 調査概要／INDEX
P02	2. 回答者属性
P07	3. 本調査
P07	1-1 ポストコロナにおける留学生の状況
P08	1-2 ポストコロナにおける取り組み
P09	1-3 2024年3月卒業予定者の割合と課題
P10	2-1 在籍留学生からの相談内容
P11	3-1 留学生の卒業後の進路
P12	3-2 専門学校進学を勧めるポイント
P13	3-3 進学先への要望
P15	3-4 進学先エリアの選定
P16	4-1 登録日本語教員制度について
P17	4-2 政府や自治体への要望
P18	4-3 専門学校と日本語学校に関わるイベントへの期待
P20	4-4 大専各への意見や要望

# 2 回答者属性



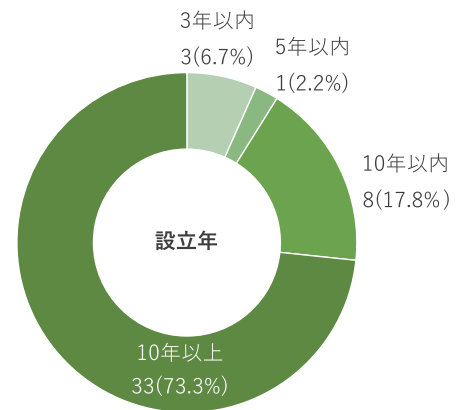
## ◇設置者

回答数：47件



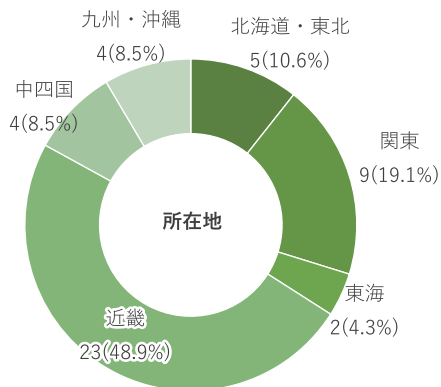
## ◇設立年

回答数：45件



## ◇所在地

回答数：47件



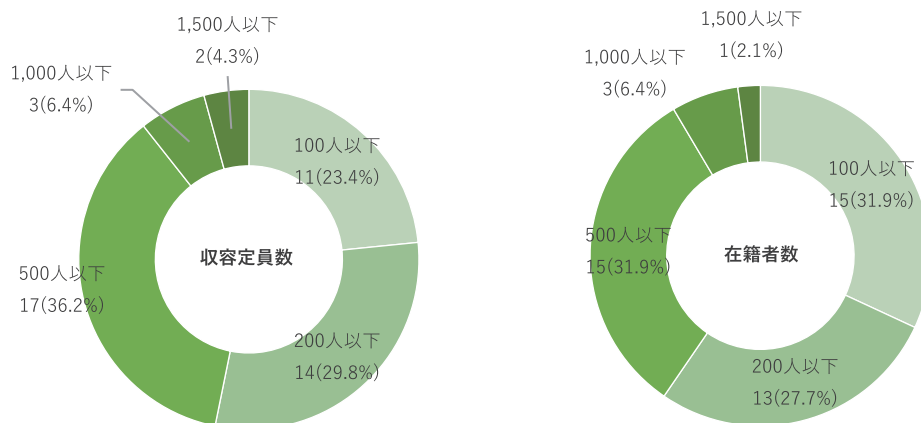
地域	都道府県	件数	割合
北海道・東北	北海道	2	4.3%
	宮城県	1	2.1%
	福島県	2	4.3%
関東	東京都	9	19.1%
	愛知県	2	4.3%
近畿	大阪府	16	34.0%
	京都府	3	6.4%
	奈良県	2	4.3%
	兵庫県	2	4.3%
	広島県	2	4.3%
中四国	岡山県	1	2.1%
	山口県	1	2.1%
	福岡県	1	2.1%
九州・沖縄	鹿児島県	2	4.3%
	沖縄県	1	2.1%

		設置者			
		その他法人立（株式会社立）	学校法人立	個人立	総計
所在地	北海道・東北	3	2		5
		6.4%	4.3%		10.6%
	関東	6	3		9
		12.8%	6.4%		19.1%
	東海	2			2
		4.3%			4.3%
	近畿	9	12	2	23
		19.1%	25.5%	4.3%	48.9%
中四国	1	2	1	4	
	2.1%	4.3%	2.1%	8.5%	
九州・沖縄		4		4	
		8.5%		8.5%	
総計	21	23	3	47	
	44.7%	48.9%	6.4%	100.0%	

## 2 回答者属性

### ◇収容定員数と在籍者数(日本語教育の学科対象)

回答数：47件

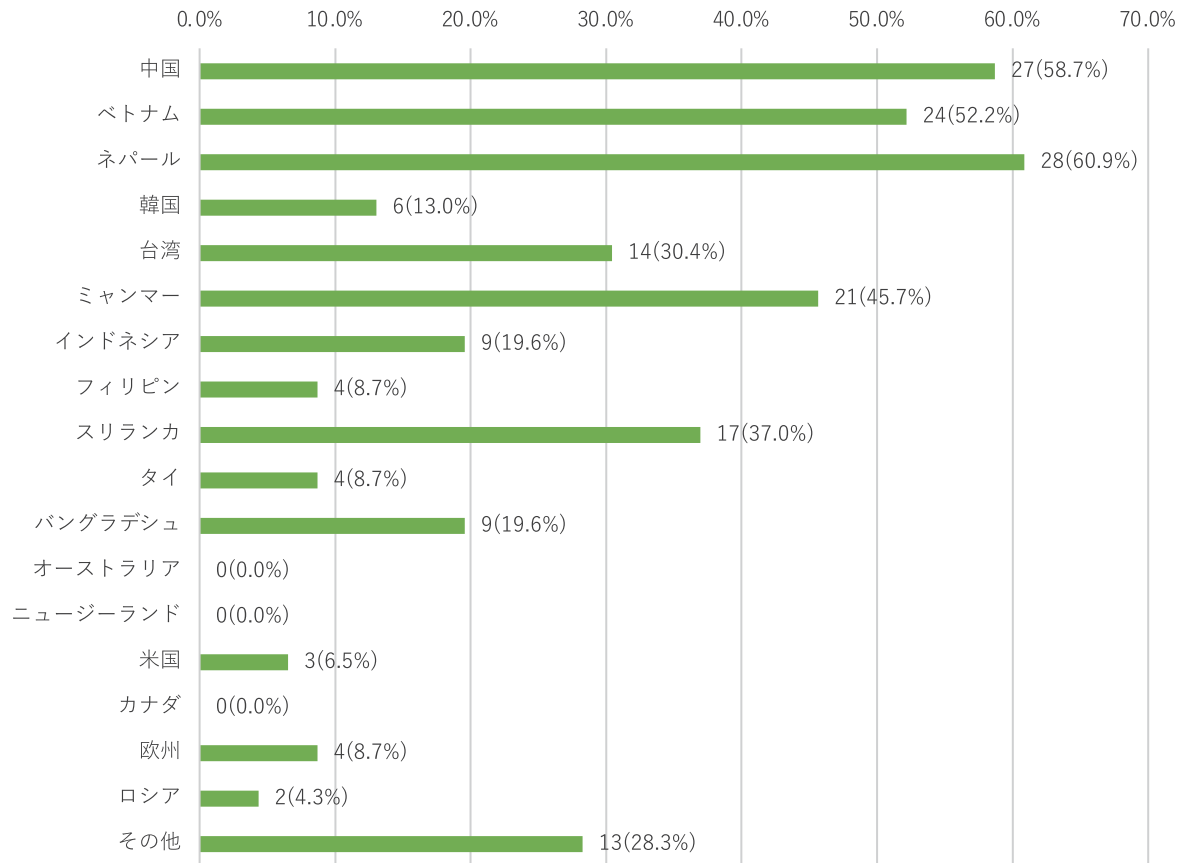


		在籍者数					総計
		100人以下	200人以下	500人以下	1,000人以下	1,500人以下	
収容定員数	100人以下	11 23.4%					11 23.4%
	200人以下	2 4.3%	12 25.5%				14 29.8%
	500人以下	2 4.3%	1 2.1%	14 29.8%			17 36.2%
	1,000人以下			1 2.1%	2 4.3%		3 6.4%
	1,500人以下				1 2.1%	1 2.1%	2 4.3%
	総計	15 31.9%	13 27.7%	15 31.9%	3 6.4%	1 2.1%	47 100.0%

## 2 回答者属性

### ◇入所属学生出身上位国・地域(上位5つまで)

回答数：46件



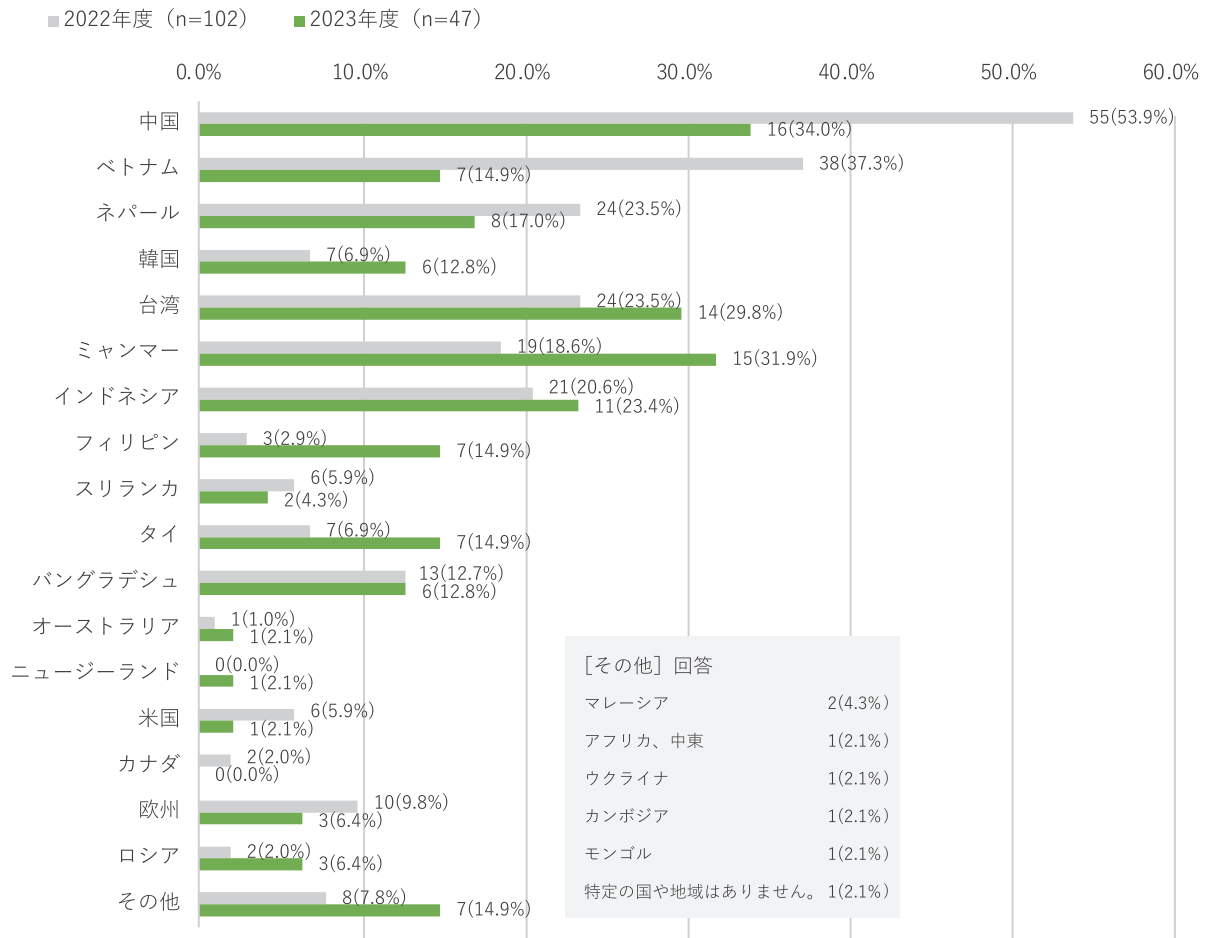
#### [その他] 回答

• ウズベキスタン	5(10.9%)
• モンゴル	2(4.3%)
• インド	1(2.2%)
• ウクライナ	1(2.2%)
• パキスタン	1(2.2%)
• マレーシア、トルコ	1(2.2%)
• 香港	1(2.2%)
• 留学生は居ません。	1(2.2%)

# 2 回答者属性

## ◇今後募集に力を入れていきたい国・地域(上位3つまで)

回答数：47件



## ◇今後募集に力を入れていきたい国・地域の選定理由

回答数：28件

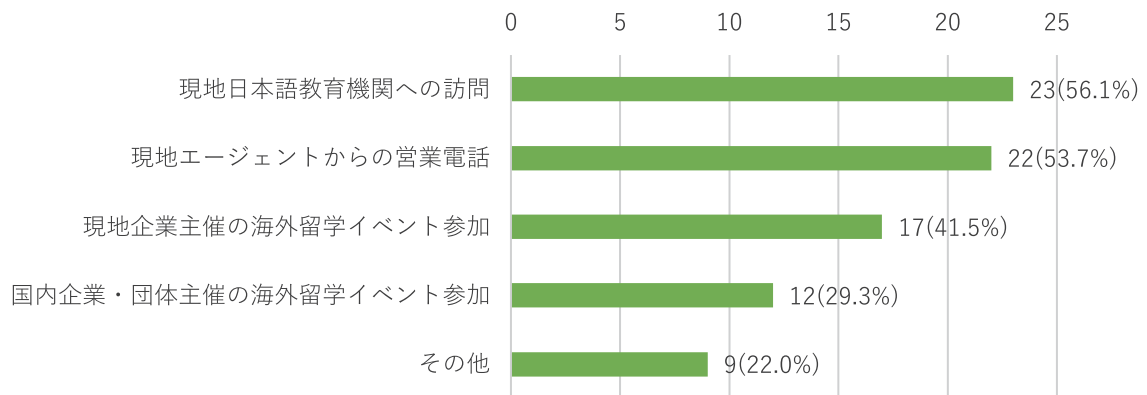
- ・学生数の増加が見込まれるから (ミャンマー/バングラデシュ)
- ・ここ数年で増加傾向にあるため (ミャンマー/インドネシア/フィリピン)
- ・オーナーの考えによる (ネパール)
- ・まだ少数だが、今までの実績から交付率も学生の質もいいから (インドネシア/フィリピン/ロシア)
- ・進学希望の学習者が多いため (モンゴル)
- ・親日国であり、現地での日本語教育環境も整う (台湾/ミャンマー/インドネシア)
- ・実績があるため (中国/韓国/台湾)
- ・現地エージェントがいる。(ネパール/台湾)
- ・優秀で真面目な学生が多いから (ミャンマー)
- ・入国時の日本語能力の面、国の安定性 (ベトナム/インドネシア/フィリピン)
- ・これまでの経験上、管理がしやすい (台湾/ミャンマー/インドネシア)
- ・当校での在籍が少ない国であり、今後さらに経済的にも伸びるエリアのため (アフリカ、中東)
- ・コロナ禍で減少したため (中国/韓国)
- ・しっかり学ぶ学生が多いので (台湾/ミャンマー/インドネシア)
- ・ある程度の経済力と一定の人口を有するため (インドネシア/タイ/マレーシア)
- ・中国とベトナムの学生が減少傾向であることと、ネパールの熱がいつまで続くか分からないため (中国/ベトナム/バングラデシュ)
- ・多国籍生徒を受入より良い学習環境を作る為 (タイ/オーストラリア/ニュージーランド)
- ・介護人材に適しているから (ミャンマー/インドネシア/ウクライナ)
- ・経済的に安定しているため。(中国/韓国/台湾)
- ・アジアの学生が多いため (米国/欧州)
- ・現地語の文法に近い・真面目な学生が多い (ミャンマー)
- ・日本語力、コミュニケーション力がある (ミャンマー/フィリピン)
- ・それらの学生が少ないため (中国/台湾/欧州)
- ・提携先との関係が良好であり、実績があるから (ネパール/スリランカ/バングラデシュ)
- ・これまでも継続的に募集をしてきたが、今後、増加が見込めるため。(中国/フィリピン/タイ)
- ・これからの国を応援したいから (インドネシア/カンボジア)
- ・優秀な学生が多い、交付率が上がった (ベトナム/ネパール)
- ・本校の学生のバランスを考えて (台湾/タイ/マレーシア)

(注釈：括弧内は回答国・地域/表記は原文ママ)

## 2 回答者属性

◇留学生募集について、貴校が実施している施策について教えてください。  
(あてはまるものすべて)

回答数：41件



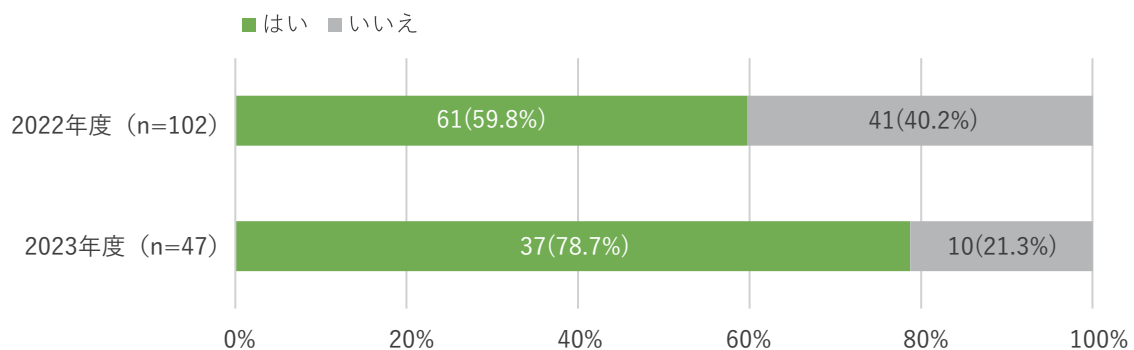
### [その他]回答

- 学校が直接に学生募集しています
- 現地エージェントからの問い合わせ (SNSのメッセージやEメール)
- グループ海外事務所
- SNSの活用
- 今の提携先に募集を委託
- HP、学校との連携、エージェント
- 現在、5か国6か所で拠点(日本語学校等)を開設
- SNS
- 特にありません。

(注釈:表記は原文ママ)

◇大専各「留学生委員会」が日本語教育機関と専門学校との  
交流会・セミナー開催などの活動をしていることを知っていましたか?

回答数：47件

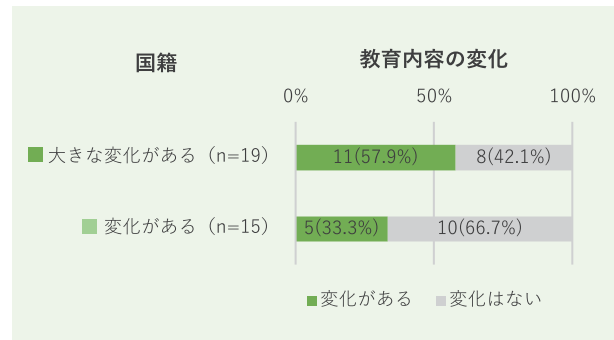
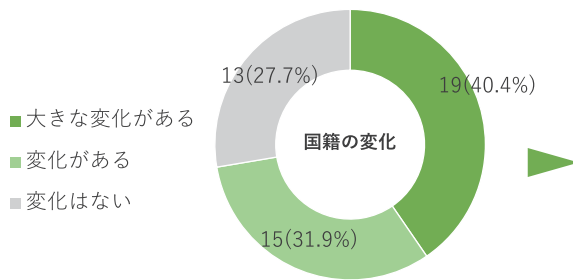


## 1-1 ポストコロナにおける留学生の状況

在籍留学生の国籍について、コロナ禍の前後での変化の有無を確認したところ、「大きな変化がある(40.4%)」「変化がある(31.9%)」と7割以上の日本語学校で国籍の変化があるとの回答があった。また国籍の変化に伴う教育内容の変化を聞いたところ、国籍の大きな変化がある学校ほど教育内容の変化に対応しているとの回答があった。

◇在籍留学生の国籍について、  
コロナ禍の前後で変化がありますか? 回答数：47件

国籍に「大きな変化がある」「変化がある」と答えた方  
◇国籍の変化に伴う  
教育内容の変化はありますか? 回答数：34件



国籍の変化に伴う教育内容に「変化がある」と答えた方

◇教育内容の変化の具体例

回答数：15件

- ・漢字圏と非漢字圏、進路の区別など
- ・非漢字圏の学生対応に内容を変更した
- ・漢字の強化
- ・男子学生の割合が増え、成績下位のクラスに男子学生が固まってしまった。
- ・ひらがなの指導が増えた
- ・カリキュラムのレベルを下げた
- ・特別クラスの編成やカリキュラム内容の変更など
- ・入国時の日本語レベルが著しく低下しているため、進級できず新入生とともに学ばざるを得ない学生がいる
- ・補講
- ・進度の調整、漢字補習
- ・今までのベトナム中国の学生に比べるとネパール学生の日本語上達、特に漢字にとっても難があるので進度が遅くなっている。
- ・学習態度や日常生活の違いなど基本的な生活全般の指導
- ・入門クラスを設置することが増えた
- ・コミュニケーション力の高い南アジアの学生が増えたことにより、授業のペースが上がっている
- ・学習進度を緩やかにした

(注釈:表記は原文ママ)

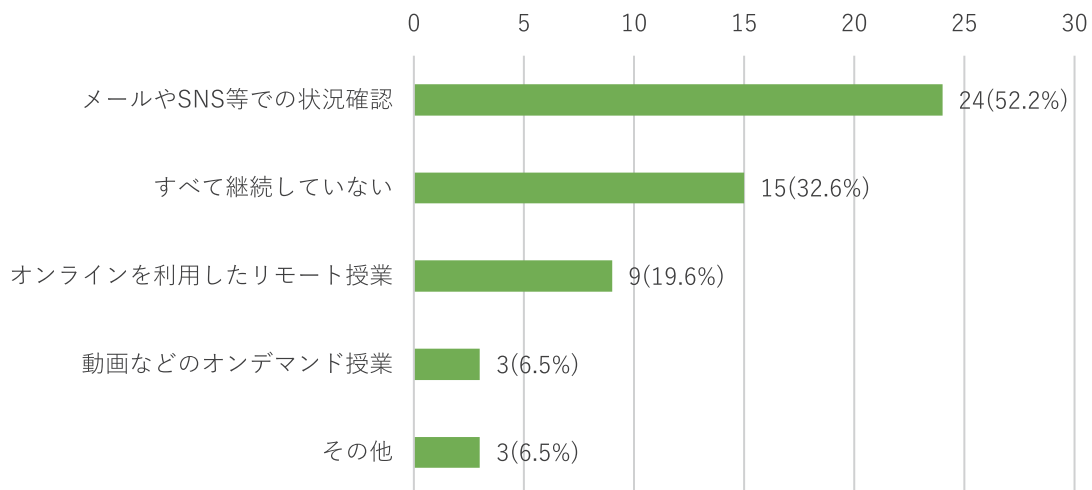


## 1-2 ポストコロナにおける取り組み

コロナ禍の取り組みでポストコロナでも継続しているものを確認したところ、「メールやSNS等での状況確認(52.2%)」が継続している一方、すべて継続していないという学校も3割以上にのぼる。オンラインを利用したリモート授業(19.6%)など一部の取り組みは継続しているものの、コロナ前の状況に戻っている日本語学校が多いと言える。

◇コロナ禍の取り組みでポストコロナでも継続しているものを教えてください。  
(あてはまるものすべて)

回答数：46件



### [その他]回答

- 募集は現地に行かずオンラインで行う
- LMS
- 大型モニターやネット環境、オンライン授業支援ツール

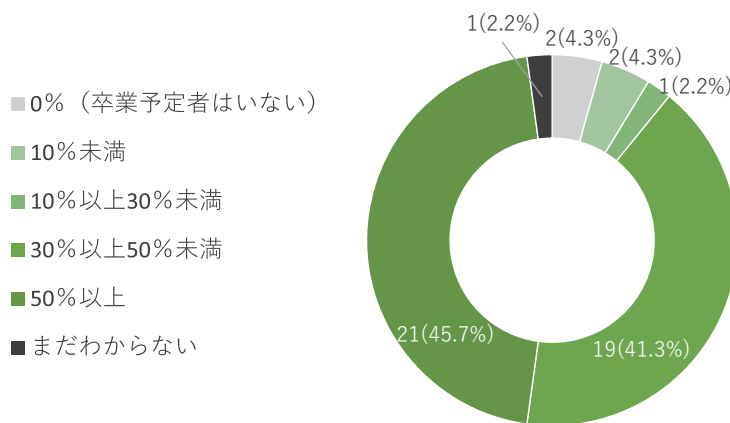
(注釈:表記は原文ママ)

## 1-3 2024年3月卒業予定者の割合と課題

2024年3月卒業予定者の割合について最も多い回答は、50%以上(45.7%)となっており、次点で「30%以上50%未満(41.3%)」となった。2022年3月の外国人留学生の新規入国緩和に伴い2022年の留学生数は16万人を超えたが、その多くは2023年度卒業予定だと言える。一方で「日本語能力の向上(61.7%)」や「教職員不足(61.7%)」を課題と考える日本語学校は多く、ポストコロナの留学生状況の対応に苦慮する日本語学校が多いといえる。

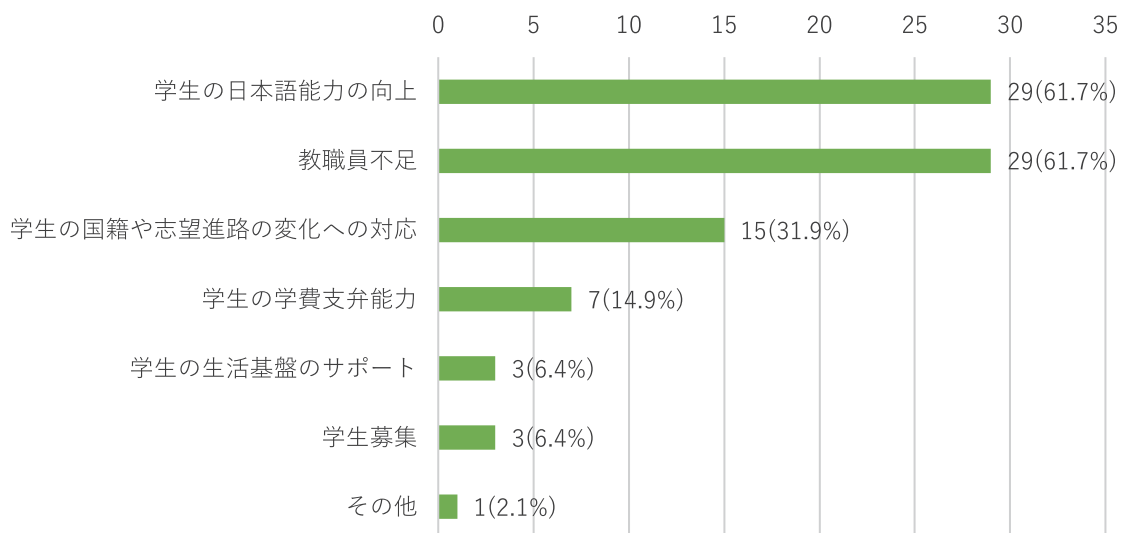
◇現在在籍している学生のうち、2024年3月の卒業予定者の割合を教えてください。

回答数：46件



◇現在の主な課題を教えてください。(複数回答可/2つまで)

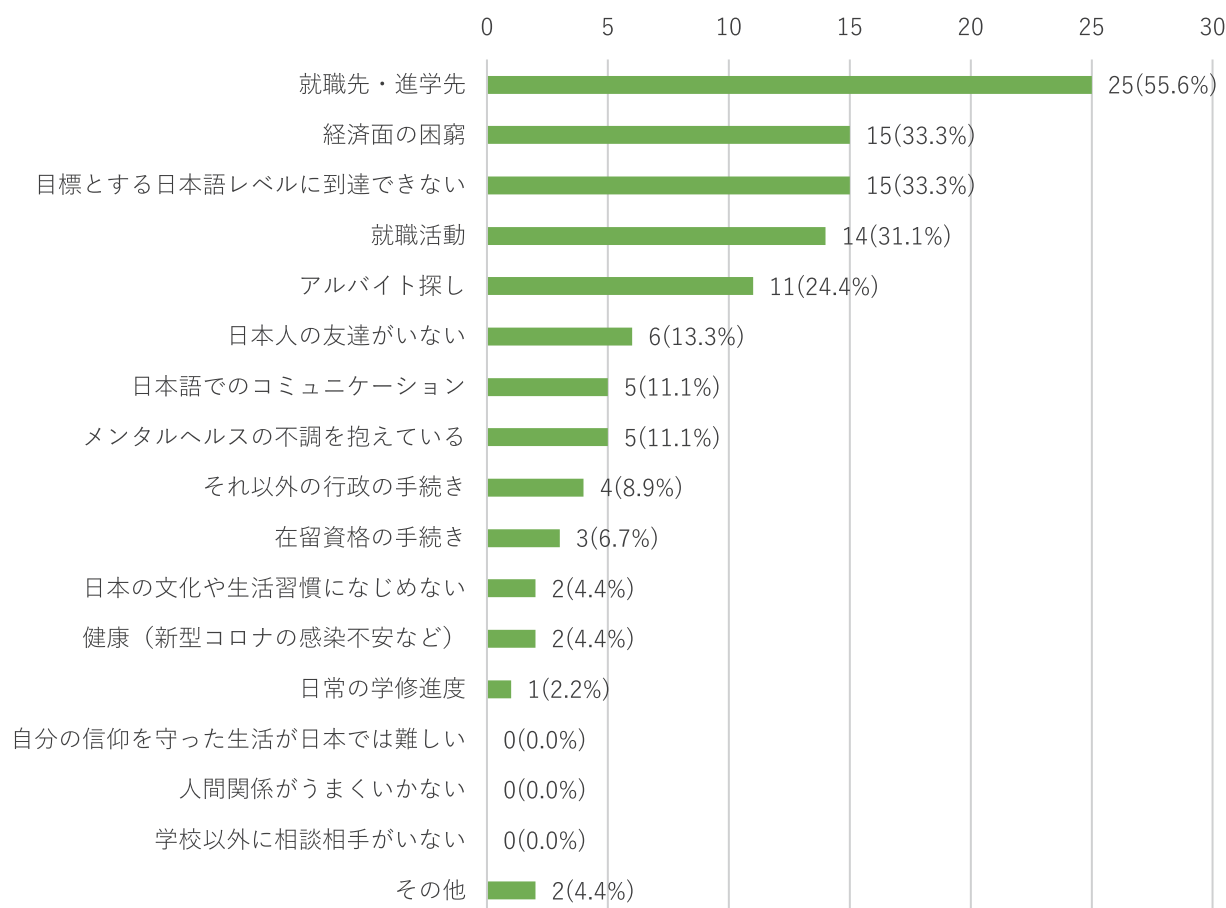
回答数：46件



## 2-1 在籍留学生からの相談内容

留学生から相談の多い心配・悩みについては「就職先・進学先(55.6%、前回27.0%)」が最多、「経済面の困窮(33.3%、前回42.0%)」「目標日本語レベル未達(33.3%、前回16.0%)」と続く結果となった。次点で「就職活動(31.1%、前回10.0%)」もあげられており、アルバイト探し(24.4%、前回50.0%)が最多だった前回調査とは大きく異なる結果となった。日本語能力不足に起因する相談が増加傾向にあるといえる。

◇今、留学生から相談の多い心配・悩みを教えてください(複数回答可/3つまで) 回答数：45件



[その他]回答

- ・病院や役所、銀行に一人でいけない
- ・留学生が在籍しておりません。

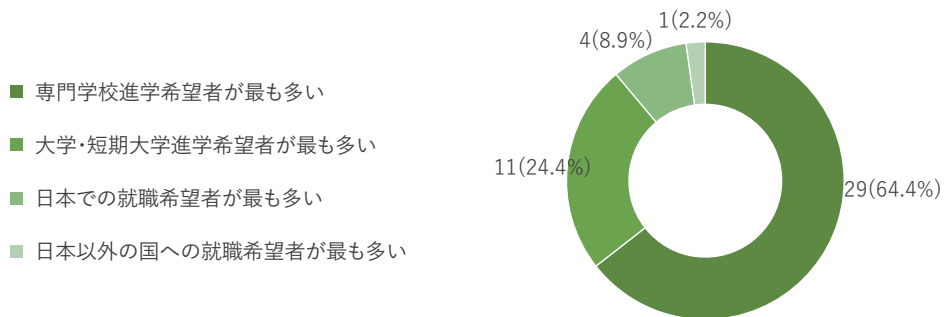
(注釈:表記は原文ママ)

## 3-1 留学生の卒業後の進路

留学生の卒業後の進路については「専門学校進学希望(64.4%)」の回答が最多で、次点で「大学・短期大学進学希望(24.4%)」となった。また国内外の就職希望者も1割程度いる結果となった。進路指導についての課題は「日本語能力が希望進路のレベルに未達(76.1%)」がすべての進路希望で最多となっており、日本語教育に課題を抱える日本語学校が多いといえる。

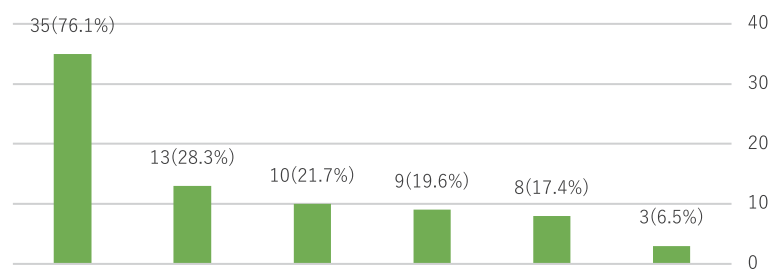
### ◇留学生の卒業後の進路についてお伺いします。

回答数：45件



### ◇留学生の「進路指導」についての今年の課題を教えてください。(複数回答可/3つまで)

回答数：46件



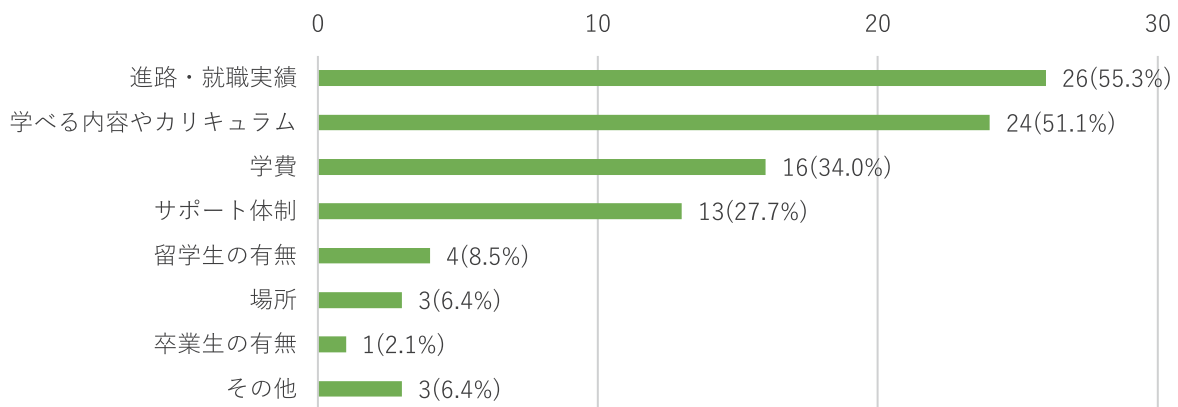
留学生の卒業後の進路	課題		日本語能力が留学生の希望する進路で求められるレベルに達しない	留学生の希望する就職先からの求人がない	大学入試対策	専門学校入試対策	日本の就職活動の慣習を留学生に伝授すること	その他
	割合	人数	割合	割合	割合	割合	割合	
総計	76.1%	(n=46)	28.3%	21.7%	19.6%	17.4%	6.5%	
専門学校進学希望者が最も多い	82.1%	(n=28)	28.6%	25.0%	28.6%	17.9%	3.6%	
大学・短期大学進学希望者が最も多い	72.7%	(n=11)	27.3%	27.3%	9.1%	18.2%	0.0%	
日本での就職希望者が最も多い	75.0%	(n=4)	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	
日本以外の国への就職希望者が最も多い	100.0%	(n=1)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
(未回答)	0.0%	(n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	

## 3-2 専門学校進学を勧めるポイント

留学生に専門学校進学を勧めるときに重視するポイントでは「進路・就職実績(55.3%)」が最多、次点が「学べる内容やカリキュラム(51.1%)」という結果になった。学費やサポート体制を勧めるポイントとする回答も多く、専門学校の特徴を理解したうえで進学を勧める学校が多いことが推察される。

◇留学生に専門学校進学を勧めるときに重視するポイントを教えてください。  
(複数回答可/3つまで)

回答数：47件



[その他]回答

- ・先輩・友達がいるかどうか
- ・各学生の日本語力や雰囲気にもマッチした校風
- ・留学生の希望

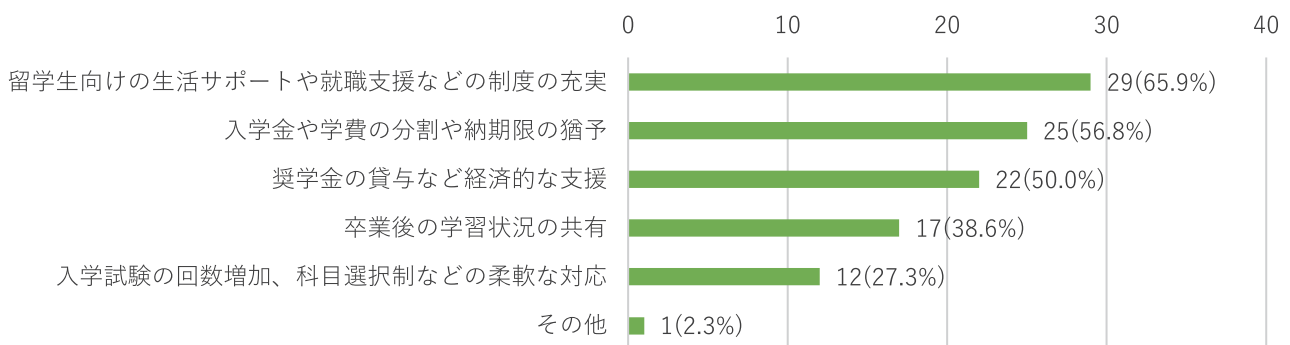
(注釈:表記は原文ママ)

## 3-3 進学先への要望

進学先の学校(大学・短期大学・専門学校)への要望については「留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実(65.9%)」が最多となったが、「入学金や学費の分割や納期限の猶予(56.8%)」「奨学金の貸与など経済的な支援(50.0%)」なども高い数値となっており、生活や就職、経済支援など多くのところで課題を抱えていることがわかる。また「卒業後の学習状況の共有(38.6%)」を求める声も多く、多くの日本語学校が卒業生の進路状況を気にしていることがわかる。

◇進学先の学校(大学・短期大学・専門学校)への要望を教えてください。  
(複数回答可/3つまで)

回答数：44件



[その他]回答  
・日本在住保証人の撤廃

(注釈:表記は原文ママ)

◇前問「進学先の学校(大学・短期大学・専門学校)への要望」について理由を具体的に教えてください。

回答数：24件

### 【経済面に関するコメント】

- ・学生が最も関心を払う分野だから  
(入学金や学費の分割や納期限の猶予)
- ・入学金と学費一括納入が多いため  
(奨学金の貸与など経済的な支援/入学金や学費の分割や納期限の猶予/留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)
- ・経済的支援がなければ、まだまだ受験すら諦めている学生がいるので。  
(奨学金の貸与など経済的な支援/入学金や学費の分割や納期限の猶予/入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応)
- ・経済的な問題がもっとも大きいから  
(奨学金の貸与など経済的な支援/入学金や学費の分割や納期限の猶予/入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応)
- ・日本との経済格差がある国からの留学生が多いため  
(奨学金の貸与など経済的な支援/入学金や学費の分割や納期限の猶予)
- ・経済能力に不安がある生徒がいるので、奨学金や分割があるかどうかは生徒にとって学校選ぶときに影響があると感じる。  
(奨学金の貸与など経済的な支援/入学金や学費の分割や納期限の猶予/留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)
- ・経済的に困難な状況にある留学生が多いため。  
(奨学金の貸与など経済的な支援/入学金や学費の分割や納期限の猶予)
- ・ネパール学生が多いが、ほとんどの学生が一括納入は難しく、また学生が就職や生活サポートが充実しているかどうかをとても気にしているため。  
(入学金や学費の分割や納期限の猶予/留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)

## 3-3 進学先への要望

### 【生活サポートに関するコメント】

- ・日本での滞在期間が長くなるため、生活面・生活費用面でサポートがあった方がよい  
(奨学金の貸与など経済的な支援／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)
- ・留学生の週28時間のバイト収入での学費や生活費の工面が厳しい。  
(奨学金の貸与など経済的な支援／入学金や学費の分割や納期限の猶予／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)
- ・経済面も含め留学生へのサポートが充実している学校が入学後も安心できるから  
(奨学金の貸与など経済的な支援／入学金や学費の分割や納期限の猶予／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)

### 【学習状況や卒業後の就職状況に関するコメント】

- ・日本へ働きにくる人がほとんどですから、学習状況や将来的に日本で仕事ができかどうか知りたいです。  
(入学金や学費の分割や納期限の猶予／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実／卒業後の学習状況の共有)
- ・卒業した学生が入学後の状況を知り、今後の進路指導などに活用したいため  
(入学金や学費の分割や納期限の猶予／卒業後の学習状況の共有)
- ・進学した卒業生に関心があるため  
(入学金や学費の分割や納期限の猶予／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実／卒業後の学習状況の共有)
- ・より高いレベル・学生の将来を考えてより将来性を感じられる就学先を進めたいから  
(卒業後の学習状況の共有)
- ・出口のその先を知りたいから  
(奨学金の貸与など経済的な支援／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実／卒業後の学習状況の共有)
- ・就職率の低さを当たり前のように考える専門学校がある  
(入学金や学費の分割や納期限の猶予／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)

### 【入試制度に関するコメント】

- ・専門学校は大学に比べてはやく入試が始まり、年内で終了することも多いため。  
(入学金や学費の分割や納期限の猶予／入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応)
- ・少しのズレであったり、情報収集不足が原因で日本留学後の希望が叶えられないといったことがないよう願うため。  
(入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実／卒業後の学習状況の共有)
- ・学校によっては時間的に出願資格(日本語能力要件)を満たすのが難しく受験の機会すら与えてもらえないため  
(入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実／卒業後の学習状況の共有)

### 【その他】

- ・緊急連絡先はいても、保証人を日本在住にいないのは普通なので。  
(入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実／その他:日本在住保証人の撤廃)
- ・留学生が進学先を選択する理由として上がるものであるから。  
(奨学金の貸与など経済的な支援／入学金や学費の分割や納期限の猶予／入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応)
- ・学生が最も気にしている点のため  
(奨学金の貸与など経済的な支援／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)
- ・進学する学生の助けになると思われるから  
(奨学金の貸与など経済的な支援／入学試験の回数増加、科目選択制などの柔軟な対応／留学生向けの生活サポートや就職支援などの制度の充実)

(注釈:括弧内は前項の回答選択肢／表記は原文ママ)

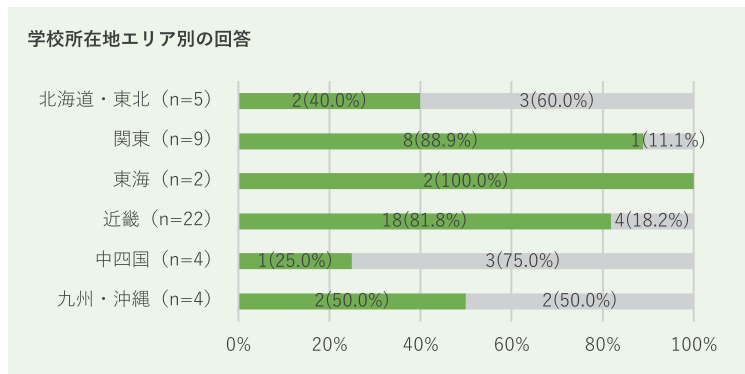
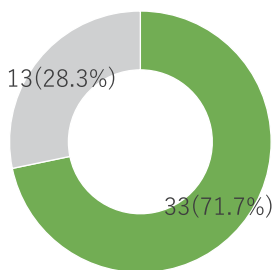
## 3-4 進学先エリアの選定

進学先選びの際、転居を伴わない進学希望が多いかの問いについて、「現住所から通えるエリアを第一志望にする学生が多い」との回答が71.7%にのぼった。エリア別にみると近畿圏では81.8%、関東圏では88.9%が現住所から通えるエリアを希望することに対し、北海道や中四国では他の地域を希望する留学生が多い。家族や友人などの所在を理由に都市部への進学希望者が多いことが記述回答から推察される。

### ◇進学先選びの一般論として留学生の現住所から通えるエリアの志望度は高いですか？

回答数：46件

- 現住所から通えるエリアを第一志望にする学生が多い
- 他の地域を第一志望にする学生が多い（例：大阪在住→東京を希望など）



### ◇前問の回答の理由を具体的に教えてください。

回答数：24件

#### 現住所から通えるエリアを第一志望にする学生が多い

- ・生活環境を変えたくないという意識が強い(広島県)
- ・慣れた場所から離れたくない(北海道)
- ・慣れた生活環境で日本での勉強継続をしたい(大阪府)
- ・生活の拠点を変えたくない学生がほとんど(本校が都心にあるため余計に地方へ行くのを避けたがる)(東京都)
- ・生活環境を変えたくない(愛知県)
- ・東京に住みたい学生が多い(東京都)
- ・家から近く、アルバイトも変えたくないため(大阪府)
- ・全てを新しい環境にすることに不安を感じるため。(東京都)
- ・引越しにかかる費用・手続きはもちろんのこと、アルバイト先を一から探すことなどへの煩わしさが大きい。(大阪府)
- ・住居やアルバイトの変更が手間と感ずるため(大阪府)
- ・コミュニティができていところが大きい(経費も含む)(大阪府)
- ・住めば都だからではないでしょうか。(大阪府)
- ・生活が慣れたため、また一からというのに億劫になっている。(大阪府)
- ・学内進学が主流の為(大阪府)
- ・生活に慣れ、人間関係もできているから(京都府)

#### 他の地域を第一志望にする学生が多い

- ・友達・先輩がいるから(宮城県)
- ・家族・友人などがいる場所を選ぶ人が多いため(京都府)
- ・親戚や友人がいるため(山口県)
- ・現在住んでいる寮等は、卒業後は退寮しなければならないので、現住所から通えることは重視していないため(東京都)
- ・東京への憧れ、知人がいるなど(奈良県)
- ・就職や他県にある専門コースに進学したい(鹿児島県)
- ・福島県内に留学生を積極的に募集している専門学校があまりなく、ネパール学生にとっては自分の知り合いがいることが進学先を決める最も重要な要素の一つだから。(福島県)
- ・関東志向が強い学生が多い(兵庫県)
- ・コミュニティが関東圏のため(大阪府)

(注釈：括弧内は学校所在地／表記は原文ママ)



# 3 本調査

## 4-1 登録日本語教員制度について

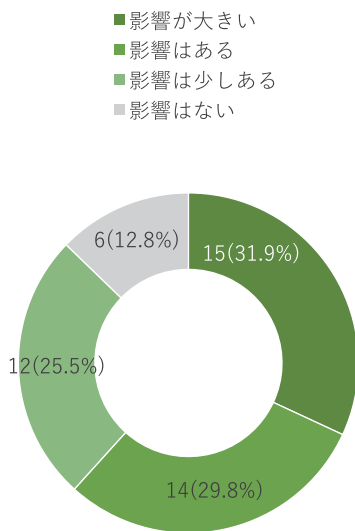
2024年1月から施行される登録日本語教員制度について日本語学校の状況を調査した。登録日本語教員制度の影響については「影響が大きい(31.9%) / 影響はある(29.8%)」と回答した日本語学校が61.7%と、半数以上の日本語学校が影響があると考えている。「影響は少しある(25.5%)」を含めると9割近くになる。また日本語学校教員に与える影響について、「前向きにとらえている(23.4%)」教員がいる一方で、「負担ととらえている(53.2%) / 大きな負担になっている(2.1%)」と半数以上が負担に感じており、学校への影響と比例して日本語教員が負担に感じている結果となった。

◇「登録日本語教員」制度について、貴校への影響について教えてください。

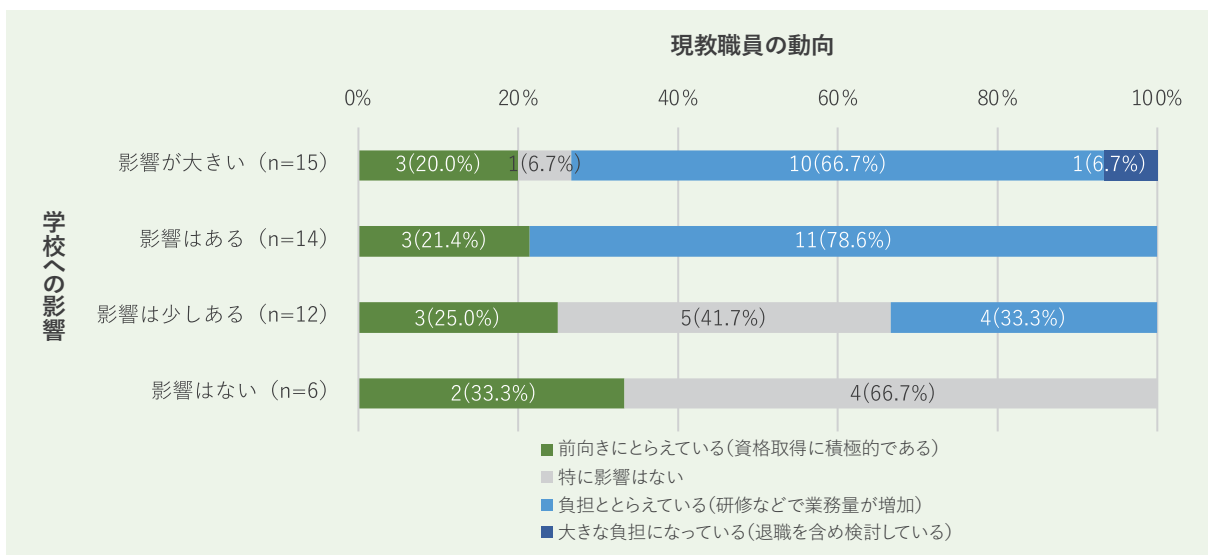
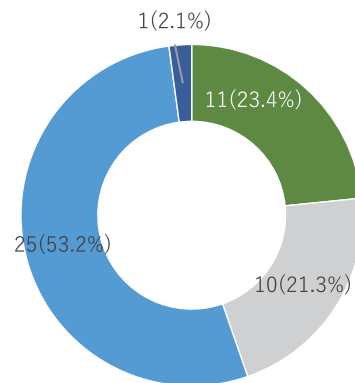
回答数：47件

◇「登録日本語教員」制度実施にあたり、現職教員の動向について教えてください。

回答数：47件



- 前向きにとらえている (資格取得に積極的である)
- 特に影響はない
- 負担ととらえている (研修などで業務量が増加)
- 大きな負担になっている (退職を含め検討している)

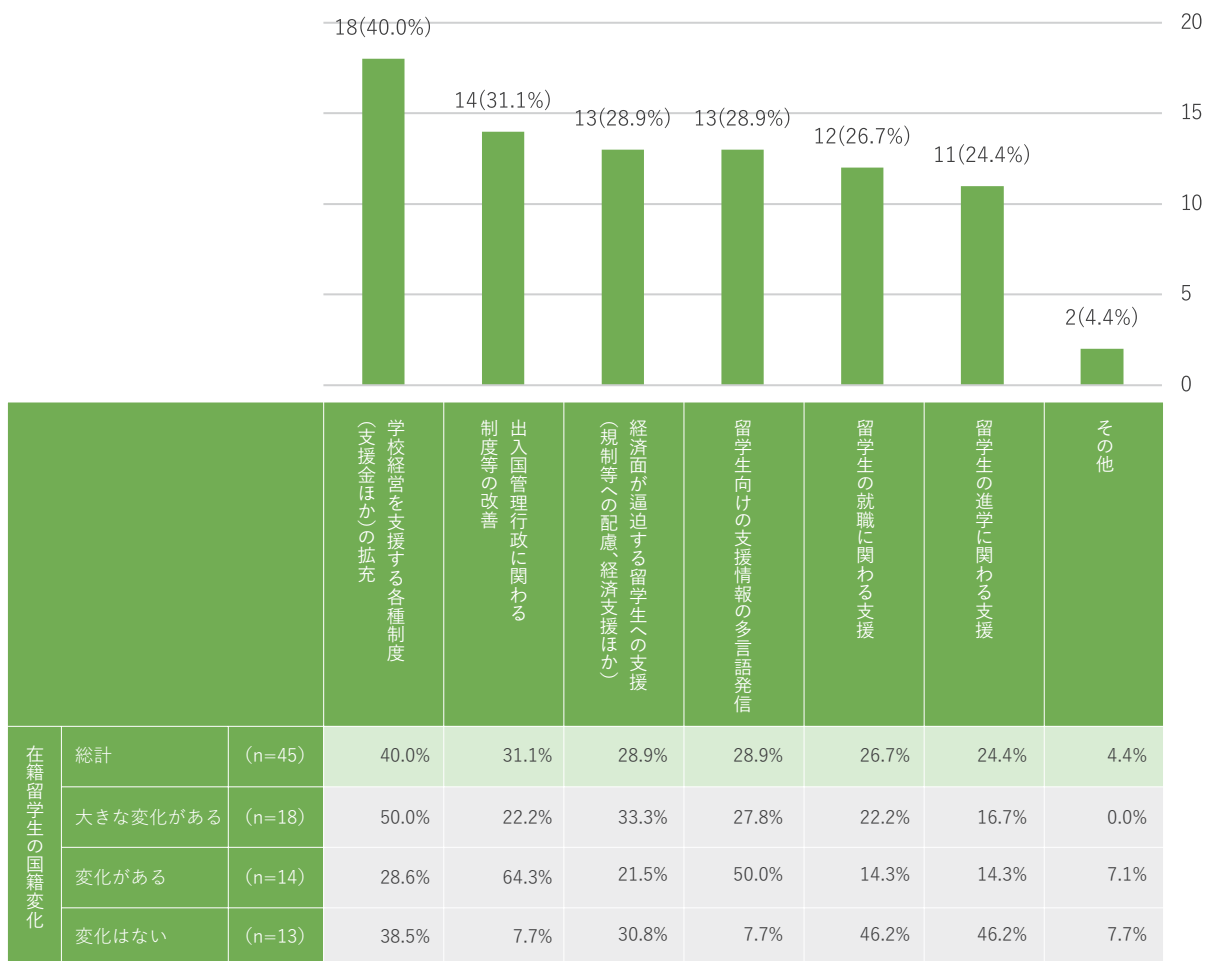


## 4-2 政府や自治体への要望

政府や自治体に期待する支援としては、「学校経営を支援する各種制度(40.0%)」が最も多く、次いで、「出入国管理行政に関わる制度等の改善(31.1%)」となった。前回調査では「経済面が逼迫する留学生への支援(前回55.6%)」が最多と、留学生本人へのサポートを望む声が多かったが、今回調査では日本語学校への支援を希望する声が多く、経営状況の悪化が懸念される。コロナ前後での国籍変化がある学校では支援言語の多言語発信を望む声も多く、変化がない学校でも就職支援への要望が増えるなど、留学生を取り巻く環境の変化がみられる。

◇政府や自治体に要望したい支援を教えてください。(複数回答可/2つまで)

回答数：45件

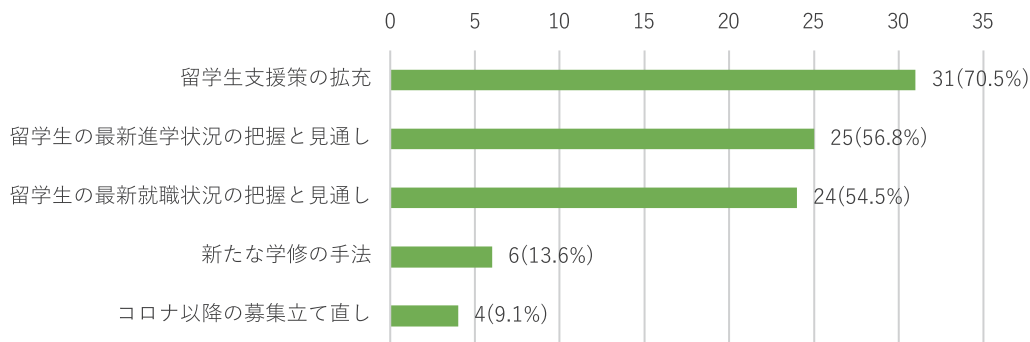


## 4-3 専門学校と日本語学校に関わるイベントへの期待

専門学校と日本語学校に関わるイベントに期待することとしては「留学生支援策の拡充」が最も多く、70.5%。「留学生の最新進学状況の把握と見通し(56.8%)」「留学生の最新就職状況の把握と見通し(54.5%)」はいずれも50%以上の学校が期待すると回答し、それぞれ前年より10%以上増えた。前回調査では3割程度あった「コロナ以降の募集立て直し(9.1%)」は大きく数値が下がっており、多くの日本語学校ではコロナ前の募集状況に戻っていると推察される。

◇専門学校と日本語学校に関わるイベント(研修会、交流)等で、どのような内容を希望しますか?(複数回答可/3つまで)

回答数：44件



◇前問と付随して、どのようなイベントなら参加されますか? 自由にご回答ください。

回答数：10件

- ・私学課、入管担当者による情報交流会など
- ・多国語対応
- ・どのように留学生のキャリアを応援できるかなど、一緒に話し合う場。
- ・最新の入試、入社情報
- ・母国での大卒者の日本語教育機関からの直接就職についての内容に関する内容
- ・各校ごとの就職に関する取り組みに関して
- ・関西圏内の専修学校や大学の留学生に対する実践授業報告などお聞かせいただきたくおもいます。
- ・連携ができていないとは言い難いから。
- ・特になし
- ・特になし

(注釈:表記は原文ママ)

## 4-4 大専各への意見や要望

◇その他、大専各に対するご意見ご要望などがありましたら  
自由にお聞かせください。(任意)

回答数：1件

・大阪へのイベント参加費や交通費が負担です。

(注釈:表記は原文ママ)

令和5年度文部科学省委託事業

「専修学校留学生の学びの支援推進事業」

留学生に関する実態把握アンケート調査報告書

[日本語教育機関対象]

発行日 2023年12月 第1版

受託 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会

編集 一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会  
(データ集計・分析 株式会社アクセスネクステージ)

住所 〒534-0026 大阪府大阪市都島区網島町6-20 大阪私学会館1F

TEL 06-6352-0048 FAX 06-6352-7553

大専各サイト <https://daisenkaku.or.jp>

OSAKA留学生情報サイト <https://study-osaka.com>